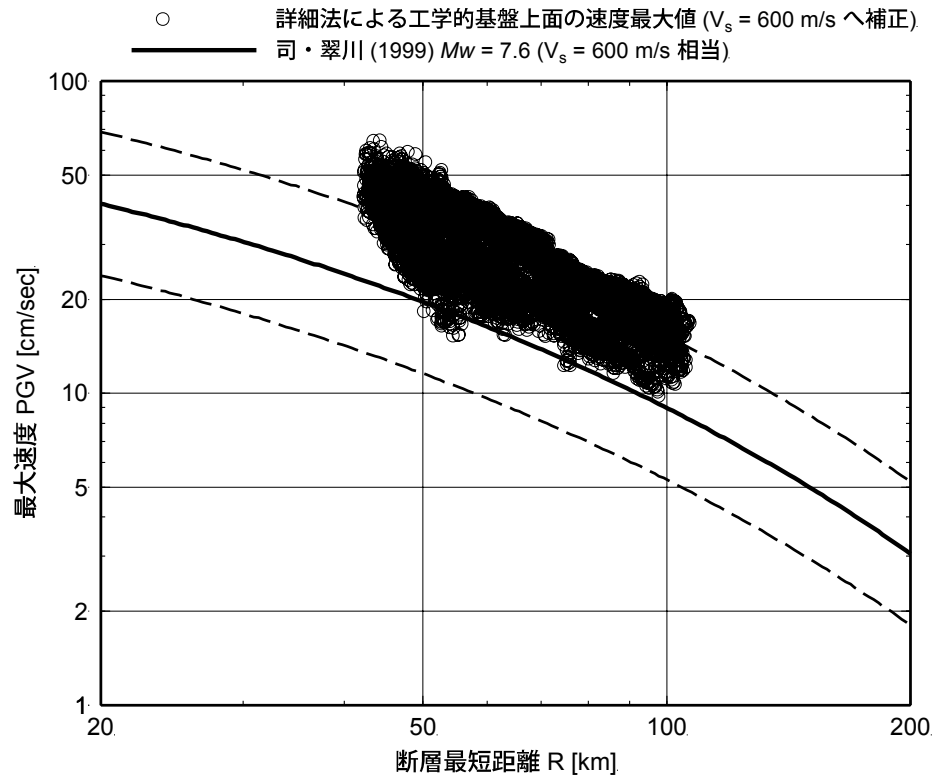
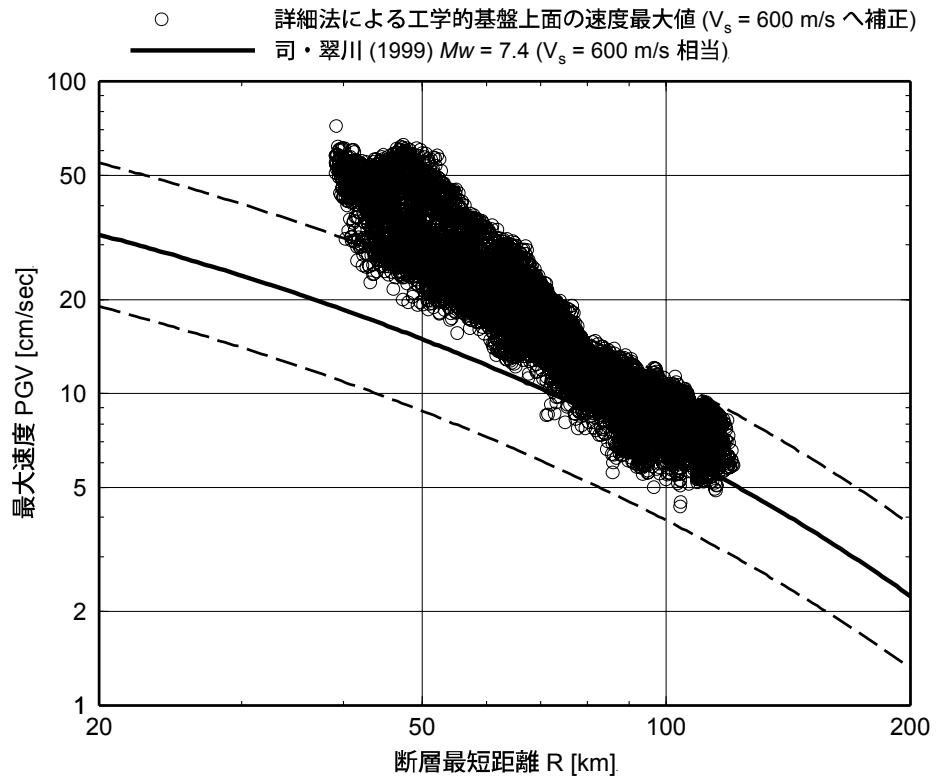


ケース A1



ケース A2



それぞれ詳細法評価範囲(図9)の計算結果がプロットされている。ケース A2 の方が、震源断層に近い評価地点が多い。

図 2 3 「詳細法工学的基盤」上の最大速度値 ($V_s=600$ m/s に換算) と司・翠川(1999)の距離減衰式との比較